

DEBUT 首長

岡山県知事 伊原木 隆太氏



いばらぎ・りゅうた 1966年岡山市出身。90年東京大学工学部卒業後、経営コンサルティング会社を経て、95年スタンフォード大MBA取得。98年創業家でもある地元百貨店・天満屋の社長就任。10月に初当選。46歳。

県政も顧客・コスト・速さ重視 かつての教育県に向け立て直し

岡山県 山陽道の中央に位置し、瀬戸大橋で四国とつながる。水島コンビナートを擁する工業県であり、桃やマスクットなど農林水産業も盛ん。人口約194万人。

——知事公選以来、岡山県では初めて中央官僚出身以外の知事になる。

選挙戦では（地元百貨店社長という）企業経営の経験を行政運営に生かしたいと訴えた。かつての高度成長時代と違い、国・地方の閉塞感が強まる中で「これまで通りではいけない」という有権者の期待を受けた。従来の役所のやり方は行き詰まっており、ビジネスの手法が必要だ。具体的には顧客重視、コスト意識、スピード感の3つを取り入れる。既存の枠組みにとられることなく、あらゆる手段にチャレンジしていきたい。

とりわけ予算面では決算重視の姿勢をはっきりさせる。決められた予算を使い切るという従来型ではなく、最小のコストでいかに効果を上げられるかを考える。予算を使うこと自体が目的となっていたり、まず予算を

取ることから始めようとするのはいけない。部門ごとのセクシヨナリズムも排し、予算執行のあり方を改善する。

——産業振興を重点公約に掲げた。

地域経済は明らかに停滞局面だが、何とか踏みとどまっている状況だ。産業活性化のため、特区制度の活用や規制緩和で県内企業の競争力を高める。地域を支える中核である中小企業に対しては、資金繰りや販路拡大の支援を徹底的に進める。産業振興を通じ雇用を増やし、県民所得の向上につなげたい。

企業誘致も重要だ。岡山県は高速道路や鉄道の交通面で中四国地方の結節点。豊かな自然環境、高水準の医療体制、水島コンビナートの産業集積など、本県ならではの優位性がある。特に地震や津波などの災害リスクが低い地域でもあり、東日本大震災以降の企業のリスク分散ニーズに応えられる。こうした競争力をトップセールスも含めて積極的にアピールする。特定の業種にターゲットを絞ることなく、幅広い分野への働きかけを

強める。経済が活発になれば税収も増え、医療や福祉といった大事な分野に投資していく。

——教育再生も訴えている。

岡山県はかつて「教育県」と呼ばれていた。しかし現在は全国学力テストで下位に低迷し、子供の暴力や不登校の多さも指摘されるなど厳しい状況に陥っている。地域の担い手を育成するという観点で、教育の立て直しは極めて重要な課題だと位置づけている。

戦後に定められた教育行政の高い独立性は現状に沿わなくなっている面もあるのではないかと。教育については首長の権限が十分ではなく、責任の所在も分かりにくい。まず県内自治体の首長、県や市町村の教育委員会とも連携しながら実態把握と対策を考える。あらゆる手法を検討する必要がある、首長が教育目標を定めるような条例の制定も選択肢として排除しない。

（聞き手は岡山支局

阿部 真也）